

令和5年度 産業・情報技術等指導者養成事業

受講案内

教科（水産：D-1）

1. 研修期間：令和5年7月24日（月）～令和5年7月28日（金）
2. 研修日程：別添1のとおり
3. 講師一覧：別添2のとおり
4. 会 場：茨城県立海洋高等学校
〒311-1214
茨城県ひたちなか市和田町3-1-26
電話：029-262-2525 FAX：029-263-5593
連絡先：茨城県立海洋高等学校 担当（教諭）：矢沢 昂也 先生
5. 研修初日の集合時間及び場所：
7月24日（月）午前8時30分
茨城県立海洋高等学校（受付／開講式を行います）
※会場の周辺（案内）図は別紙のとおり。
6. 持参するもの：
【講義受講用品】 筆記用具、ノート等
【実技受講用品】 水着、スイミングキャップ、ゴーグル、フィン、マスク、スノーケル、BC（BCD）、レギュレーター、オクトパス、残圧計、水深計、ウエットスーツ、（この講習はスクーバ・ダイビングコーチ1（指導員）専門科目認定講習となります。指導員となるためには自分の器材を持ち、それに慣れていることが必要ですので、原則として器材の貸し出しはしません。空気タンク、ウエイトは用意します。※ウエイトベルトはご持参下さい。）
【日常生活用品】 トレーニングウェア、シューズなど受講しやすい服装、健康保険証、常備薬、洗面用具等。
※荷物を送付する場合は、会場（茨城県立海洋高等学校 矢沢昂也先生）宛に送って下さい。
7. 宿泊について：各自で手配願います。
＜参考＞茨城県立海洋高等学校から一番近い宿は、春日ホテル（住所：ひたちなか市湊本町1-4 電話：029-262-3164）です。
その他、ビジネスホテルは勝田駅周辺にあります。
8. 内 容：本研修会は「(公財) 日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ1（旧指導員）」資格を取得するために必要となる「専門科目」を行います。
本研修会を受講し、筆記試験及び実技検定に合格することで専門科目が修了となります。

【実技検定内容】

- ア クロールで10分間休まず泳げる。
 - イ スノーケリング400メートル。
(7分以内。但し、30歳以上8分以内、40歳以上9分以内)
 - ウ 水平潜水能力40メートル。(フィンを使用)
 - エ 垂直素潜り。(水深5m)
 - オ スクーバ脱着。(5分以内)
 - カ スクーバ・ダイビング全般の指導が出来ること。
 - キ 全てのスキルにおいてデモンストレーションが行えること。
- ※実技検定内容の詳細は、別紙3のとおり。

※(公財)日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ1資格を取得するには、「専門科目」の他に、「共通科目I」が必要となります。

9. 受講条件：水産校長協会「潜水技術検定証書基準」記載の、教員の指導体制要件と同等の講習を修了していること。
- ※受講者は、事前に十分なタンク本数を重ねることで、経験を積んでおくこと。
- ※日本スポーツ協会の公認スクーバ・ダイビング指導員を取得する場合、別途通信教育による講座受講が必要となる。

10. お問い合わせ先：〒231-0005

神奈川県横浜市中区本町4丁目43番地 A-PLACE 馬車道9階

TEL：045-228-3067 FAX：045-228-3063

E-mail：marine-safety@kaiyo-reja.gr.jp

一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会 安全事業部

担当：高野・平川・白石

【茨城県立海洋高等学校周辺地図】

○バス利用の場合

- ① J R 「水戸」 駅より、「平磯・阿字ヶ浦」行きバス乗車、「本町北」下車、徒歩10分（水戸駅より約40分）
- ② J R 「勝田」 駅より、「平磯・阿字ヶ浦」行きバス乗車、「本町北」下車、徒歩10分（勝田駅より約30分）

○鉄道利用の場合

J R 「勝田」 駅で、私鉄・ひたちなか海浜鉄道（湊線）乗り換え、「那珂湊」下車、徒歩15分

○車の場合

東水戸道路水戸大洗 I C から一般道路 8 分

※車の場合は、駐車スペースの関係がありますので、必ず事前に当協会安全事業部までご連絡下さい。



令和5年度産業・情報技術等指導者養成事業 教科(水産:D-1)
研修日程(予定)

時間	7月24日(月)	7月25日(火)	7月26日(水)	7月27日(木)	7月28日(金)
8:30	9:00～ 開講式 文部科学省 西澤 美彦 先生 オリエンテーション (講習会の説明)	筆記テスト①	筆記テスト②	筆記テスト③	筆記テスト④
9:30					
10:00	講義 ダイビングの歴史と概要 インストラクターの役割 水中科学研究所 代表 (DAN JAPAN 主任研究員) 野澤 徹 (2H)	講義 潜水計画及び指導計画 (指導法) 東京海洋大学 教授 千足 耕一 (2H)	講義 潜水医学 メディカルチェック 東京曳舟病院 副院長 三浦 邦久 (2H)	講義 DCIEM 減圧表について 水中科学研究所 代表 (DAN JAPAN 主任研究員) 野澤 徹 (講義0.5H+実習1.5H)	講義・実習 救急蘇生法 東京海洋大学 教授 千足 耕一 (2H)
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00	講義 ダイビング事故と安全対策 東京海洋大学 教授 千足 耕一 (2H)	講義 潜水物理学 (潜水と減圧症) 水中科学研究所 代表 (DAN JAPAN 主任研究員) 野澤 徹 (2H)	講義 潜水生理学 (潜水と身体適正) 水中科学研究所 代表 (DAN JAPAN 主任研究員) 野澤 徹 (2H)	講義 潜水計画及び指導計画 (海況判断) 日本体育大学 教授 小泉 和史 (2H)	講義・実習 酸素ファーストエイド 水中科学研究所 代表 (DAN JAPAN 主任研究員) 野澤 徹 (2H)
15:00	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
15:15	講義・実習 スキンドайビング指導能力 フィン泳力指導能力 スクーバ・ダイビング指導能力 東京海洋大学 教授 千足 耕一 日本海洋レジャー安全・振興協会 高野 修 公認スクーバダイビングコーチ2 (講義0.5H+実習1.5H)	実習 指導実習の実践 指導:コーチ2受講生 受講:コーチ1受講生 東京海洋大学 教授 千足 耕一 日本海洋レジャー安全・振興協会 高野 修 公認スクーバダイビングコーチ2 (2H)	実習 個人、集団の指導及び評価方法 指導:コーチ2受講生 受講:コーチ1受講生 東京海洋大学 教授 千足 耕一 日本海洋レジャー安全・振興協会 高野 修 公認スクーバダイビングコーチ2 (2H)	実技検定 40M平行潜水 400Mフリップパー 10分間泳(クロール泳) スクーバ水中脱着 東京海洋大学 教授 千足 耕一 日本体育大学 教授 小泉 和史 日本海洋レジャー安全・振興協会 高野 修 公認スクーバダイビングコーチ2 (2H)	講義 研究協議 文部科学省 西澤 美彦 先生 (1H)
17:15	自由練習	自由練習	自由練習	自由練習及び実技追試	16:15 休憩 16:30 閉講式 文部科学省 西澤 美彦 先生 17:00
19:00					<通信教育> ・ダイバーのための海洋学 ・日本の海の自然環境 ・水産関係諸法規 ・海洋関係諸法規

注)(1)講師及び講習の内容については、会場や講師の都合等により変更する場合があります。

(2)実習においては、状況により臨機に休憩をとります。

(3)自由練習については、主催事務局が付き添います。

実施会場:茨城県立海洋高等学校(茨城県ひたちなか市)

令和5年度産業・情報技術等指導者養成事業 教科（水産：D-1）

講 師 一 覧

氏 名	職 名	担 当 講 座
千足 耕一	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京海洋大学教授 ・ 全国水産海洋高等学校潜水部会顧問 ・ NAUIインストラクター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダイビング事故と安全対策 ・ 潜水計画及び指導計画（指導法） ・ スキンダイビング、フィン泳力、スクーバ・ダイビング指導能力 ・ 指導実習の実践 ・ 個人、集団の指導及び評価方法 ・ 実技検定 ・ 救急蘇生法
小泉 和史	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本体育大学教授 ・ 日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ2 ・ NAUI コースディレクター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 潜水計画及び指導計画（海況判断） ・ 実技検定
野澤 徹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水中科学研究所代表 ・ DAN JAPAN主任研究員 ・ 日本高気圧環境・潜水医学会評議員 ・ 潜水医学情報ネットワーク副理事長 ・ 日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダイビングの歴史と概要 ・ インストラクターの役割 ・ 潜水物理学 ・ 潜水生理学 ・ 減圧表について ・ 実技検定 ・ 酸素ファーストエイド ・ 筆記テスト ・ スキンダイビング、フィン泳力、スクーバ・ダイビング指導能力 ・ 指導実習の実践 ・ 個人、集団の指導及び評価方法
高野 修 （実習助手）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海洋レジャー安全・振興協会安全事業部 ・ 日本海洋人間学会評議員 ・ 日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ2 ・ NAUIコースディレクター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキンダイビング、フィン泳力、スクーバ・ダイビング指導能力 ・ 指導実習の実践 ・ 個人、集団の指導及び評価方法 ・ 実技検定
白石 健太 （実習助手）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海洋レジャー安全・振興協会安全事業部 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキンダイビング、フィン泳力、スクーバ・ダイビング指導能力

	<ul style="list-style-type: none"> ・ PADIインストラクター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導実習の実践 ・ 個人、集団の指導及び評価方法 ・ 実技検定
西澤 美彦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省教科調査官 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協議
三浦 邦久	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京曳舟病院 副院長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 潜水医学
澤田 和之	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小樽水産高等学校教諭 ・ 日本スポーツ協会公認スクーバダイビングコーチ2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキンダイビング、フィン泳力、スクーバ・ダイビング指導能力 ・ 指導実習の実践 ・ 個人、集団の指導及び評価方法 ・ 実技検定

【参考】 検定項目についての評価内容および手順について

- 全ての項目 ※受講者 30 名を想定しています。

「安全に」「正しく」「落ち着いて」行う。

配置についたら検定員に氏名を伝える。

検定内容については、基本スキルは出来ていることが前提で行われる。

よって、基本スキルが出来ていない場合は、検定以前の問題とし、合否判定にも反映される。

- 10分泳

[評価内容および手順]

コースロープには触れない。泳法はクロールのみ。

スタート：検定員の合図で一斉にスタート。

終了： 検定員の終了合図とともに終了。

[流れ参考例]

6名ずつ×5組。基本、深場側を若い番号とし、順番にコースに入るが、泳力のある者（3名）が深場で泳ぐこととする。次の組は10分間の距離を確認し、検定員に泳者の氏名と距離を伝える。

3組目以降の者は順番に左右近い側プールサイドに並ぶ待機および安全管理。

終了した者は、一番後ろに並ぶ。

- 400Mフリッパー（7分以内。ただし、30歳以上8分以内、40歳以上9分以内）

[評価内容および手順]

ターン時のタッチ手かきは360度まで。スタート時の180度および、ゴール時のタッチ片手かきは180度まで。

スタート：検定員の合図で一斉にスタート。

終了：タッチしてゴール。

[流れ参考例]

6名ずつ×5組。深場側を若い番号とし、順番にコースに入る。次の組はゴールタイムを確認し、ゴール後検定員に泳者の氏名とタイムを伝える。

3組目以降の者は順番に左右近い側プールサイドに並ぶ待機および安全管理。

終了した者は、一番後ろに並ぶ。

- 40m水平潜水

ハイパーベンチレーションを行わない。

[評価内容および手順]

スタート：検定員の合図で一斉にスタート。

終了：待機している次の組の者にOKサインを出す→次の組の者がOKサインを返したら検定終了。

[流れ参考例]

3名ずつ×10組。深場側を若い番号とし、順番にコースに入る。次の組は準備をしてスタート地点付近で待機および安全管理。

3組目以降の者は順番に浅場側プールサイドに一直列に並び待機および安全管理。

終了した者は、一番後ろに並ぶ。

●5M垂直潜水

[評価内容および手順]

スタート：検定員に対しOKサインを出す→検定員がOKサインを返したら検定スタート。ジャックナイフ（静かに）で潜降開始→水底でもやい結びを行う（しっかりと結ぶこと）→結んだら検定員にOKサインを出す→検定員が確認し出来ていればOKサインを返す→受講者は浮上サインを出して浮上する（水面の安全確認のため360度回転しながら、しっかり手を頭より高く伸ばし、ゆっくり浮上）→水面到着時飛び出さず顔を水につけたままスノーケルクリアを行う。

終了：検定員にOKサインを出す→検定員がOKサインを返したら検定終了。

[流れ参考例]

2名ずつ×15組。奇数番号の者は5Mプール深場側、偶数番号の者は5Mプール浅場側よりスタート。次の組は準備をして水面で待機および安全管理。

●スクーバ脱着（5分以内）

[評価内容および手順] ※マスク（スノーケル付）、フィン、ウエイトベルト、BC脱着。

脱いだ器材がバラバラにならないこと（その場から動かずに器材を回収装着できること）

潜降→水底で器材を脱ぐ→バルブを閉める→正しい浮上スタイルでゆっくり浮上（息は止めない）→再度潜降→バルブを開け呼吸開始→器材装着→正しい浮上スタイルでゆっくり浮上。

スタート：水面で検定員に対しOKサインを出す→検定員がOKサインを返したら検定スタート。

終了：検定員にOKサインを出す→検定員がOKサインを返したら検定終了。

[流れ参考例]

4名ずつ×8組。プール入り口側から順番に1.5Mプールに入り並ぶ。2組目は器材を装着した状態で入水して待機。3組目以降の者は順番に浅場側プールサイドに一直列に並び待機および安全管理。

終了した者は、一番後ろに並ぶ。

以上